

# 新市建設計画策定方針

“叡智と情熱が結ぶ、21世紀の新たな文化発祥都市”の実現に向けて

## 計画策定の基本方針

任意合併協議会において、住民代表の皆さんを中心とした新市建設計画構想策定委員会により策定された「新市建設計画構想」は、合併により誕生する新市の将来の姿や、その実現に向けて取り組む施策のあり方など、概ね20年後を見通した長期的なまちづくりの方向性を示したものです。

このため、地理的・自然的な条件や、歴史的・文化的な背景を共にし、日常生活の面でも、かねてから一体的なつながりが深い佐久市・臼田町・浅科村・望月町の4市町村に暮らす全ての住民の皆さんにとって、その理念を共有できる内容となっています。

こうしたことから「新市建設計画」を策定するにあたっては、「新市建設計画構想」における新市将来都市像（叡智と情熱が結ぶ、21世紀の新たな文化発祥都市）を新市のまちづくりの目標として受け継ぎ、各分野における「基本目標」と「主要プロジェクト」を新市の施策の柱と位置づけることとします。

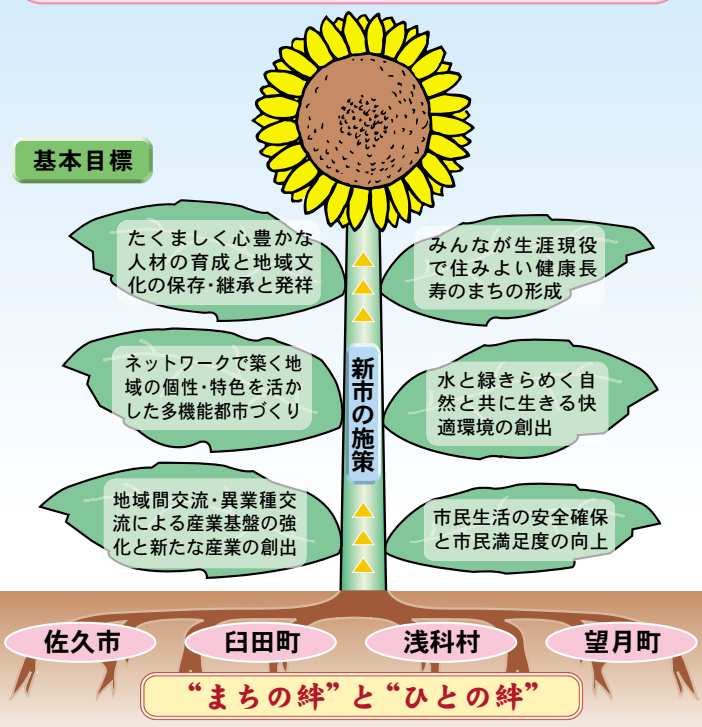
そして、これらを具体化するために、真に新市のまちづくりに役立つ事業を厳選し、その実施時期や概算の事業費を織り込みながら、今後取り組むべき事項を明らかにすることとします。

## 新市建設計画のイメージ

### 新市将来像

「叡智と情熱が結ぶ、21世紀の新たな文化発祥都市」

### 基本目標



## 新市建設計画の構成

### I. 序論

- 合併の背景や計画策定方針など

### II. 合併市町村の概況

- 4市町村の位置、地勢、人口、面積など

### III. 主要指標の見通し

- 新市の人口と世帯の見通し

### IV. 新市建設の基本方針

- 新市の将来像やゾーン図など

### V. 新市の施策

- 新市で取り組む施策の概要

### VI. 新市における県事業

- 新市の区域で行われる県事業の概要

### VII. 公共施設の統合整備

- 新市の公共施設配置についての基本的考え

### VIII. 財政計画

- 新市の財政見直し

## 合併による財政効果

“年間で約21億円の経費削減”

合併により、人件費や物件費等行政経費を削減することができます。現在の4市町村の行政経費と比べると、年間約21億円の経費削減となります。

1

### 人件費

10億9,200万円

議員数は法定数の34人、市長等理事者は4人、職員は類似団体の職員数、その他の特別職は現行の50%減として見込みました。

2

### 物件費

2億9,700万円

臨時職員を現行の40%減とし、電算システム管理費は主幹となるシステムの25%増とし他のシステム管理費の減を見込みました。

3

### 補助費等

5億4,500万円

補助対象、補助内容の見直しにより10%の削減を見込みました。

4

### 繰出費

1億5,100万円

特別会計の整理統合、繰出し基準の見直しにより、5%の削減を見込みました。

この削減額は、新市の財源を推計する上で計算したもので、効率化の進め方によって削減額は変動することになります。